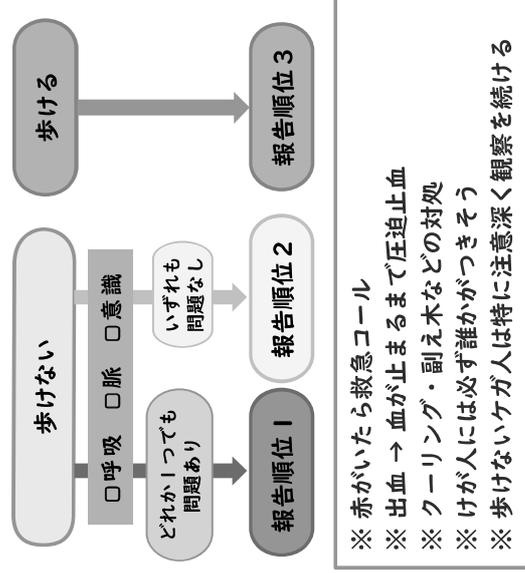


## G. いかがででしたか？

5分ほど時間を取るのです、下記の視点を中心に感想を共有してください

- 一番大事な情報は、何だったのか
- 最初にすべき指示は、何だったのか
- どのような役割分担をするのが良かったのか

## けが人情報伝達の優先順位



(吉田茜, 2023)

## 怪我の重症度以外の重要な情報とは？

- 児童の脱走
- 渡り廊下の大規模損壊
- エレベータ閉じ込め
- 要配慮者・乳児・高齢者の把握と早めの対応
- …

あなたの学校の「報告優先順位」を考えましょう

## 赤と黄だけ報告の場合

- 桜小学校は情報伝達の優先順位を学び、まずは赤と黄色だけを報告することになりました。
- 登場人物(担任)も発災後の状況も先ほほどと同じです。
  - 1年担任(女)・3年担任(男)・6年担任(女)



1.報告者氏名 ⇨ 2.カラー ⇨ 3.場所 ⇨ 4.児童情報

**本部が情報集約することで現場が助かる  
本部が機能するように現場が情報伝達する**

- ポイント：
  1. 情報集約はどこでやるのか(場所)
  2. どの場所の情報を扱うのか(何箇所に設置するのか)
  3. 情報集約スポットの名称は何か
  4. どのような情報を優先的に届けるのか
  5. どのような方法で届けるのか
- **発災直後の情報集約場所と情報伝達の方法を決める**
- **どのような情報を優先的に伝達するのか決める**
- **決めた方法がうまくいくか、一回やってみる**

## 情報伝達の経路（これまでの事例）

- 伝達経路
  - 管理職が全教室巡回する  
→ 学校の規模によっては時間がかかるとか  
／余震でやり直し、など難点も多い
  - フロアで一番安定しているクラスの担任が本部へ報告に行く
  - フロアごとに集計、管理職はフロア本部を巡回する
    - 中央階段に情報を寄せ、管理職が中央階段を上下する
    - フロアブース(フロア本部)を設営し、管理職はフロアブースを巡回する

自校の情報伝達経路が機能するか、訓練のときに試してみる

## 本部の設置場所（これまでの事例）

- 発災直後の本部の設置場所
  - 校長室・職員室・保健室前の廊下, などの事例が多い
    - 担架が保健室にあることが多い
    - けが人の発生などで養護教諭と話したい
    - 保健室に入る児童生徒を本部が目視で確認できる
  - 自校で実際にやってみることが大事
  - 保健室前の廊下でやってみた結果, 校長室や会議室の方がうまくいった学校もある
  - まずは職員室前, けが人が出たら保健室前, とした学校もある
  - 臨時保健室を校長室前のランチルームに作る, とした学校もある

自校の情報伝達経路が機能するか、訓練のときに試してみる

## G. 自校の情報伝達の経路

- Q1. 臨時本部はどこがいいのか？
- Q2. どのように情報伝達するのか？
  - 校舎の構造・規模・校種／トランシーバーの有無／教職員の構成／渡り廊下の位置／などに依る
- 自校の教室配置図を見ながら, 3分くらい話し合ってください。
- 各グループから複数の案をだしてもらって構いません。

## 発災時の対応： 教室 ⇄ 情報 ⇄ 本部

### 現場： けが人対処

### 『けが人報告順位表』

1.声かけ ⇨ 2.重症度判断 (必要に応じて119) ⇨ 3.応急処置 ⇨ 4.仲間を集める ⇨ 5.声かけの継続 ⇨ 6.必要に応じた搬送 ⇨ 7.全体の点呼

### 情報伝達

### 『本部ワーク』

- ・ 状況の記録 (けが人報告カードの記入)
- ・ 本部への伝達
- ・ 本部からの伝達

### 本部： 判断と後方支援

### 『情報伝達訓練』

- ・ 情報の記録
- ・ 分析・判断
- ・ 外部情報 (震度や津波情報) の記録

## 「情報伝達訓練」で 臨時本部設置場所と情報伝達経路を 試してみよう

## 情報伝達訓練キットを活用

- 別資料「本部情報伝達訓練キット」に従って、けが人想定の情報伝達訓練(レベル1)を行う

**本部情報伝達訓練 教材キット**

**目的：**

- ・ 各校全体の臨時本部の設置場所、各への情報伝達経路やその役割がまんべんなく確認でき、実際に応じているかの確認が出来ること
- ・ 本校に「本部ワーク」を校内で行う。
- ・ 「本部ワーク」で実施された結果を本部に送付し、本部からの情報伝達経路がまんべんなく確認できるか、実際に応じているかを確認する。
- ・ 「事故全体の状況や発生している状況も把握できていない状況はないか。
- ・ チームとして動く。
- ・ 困りやすい箇所 / 各のチームの役割分担はしているか。
- ・ まずはフロア内でOne Team、次いで、学校全体でOne Teamとなる。
- ・ 陸橋施設にそれぞれ役割の役割が各自で考えておく。

あくまでも初期の段階が目的。副都庁のけが人、車・緑の間に出入りするのを判断できるようにすることも目的ではない。

色判紙を用意しても、自分でなくて他の職員と相談していい。複製したものの活用は、決していいことではない。

大事なのは、それらができると本部の学校になっているかどうか。

## けが人カードの例

 <p>↑特にケガはしていない</p>	 <p>↑歩けないので黄</p>
 <p>↑歩けるケガなので緑</p>	 <p>↑意識に異常ありなので赤</p>

**状態： 溺水・停電**

- ・ 次の階層が自らで改善できるか確認すること
- ・ けが人への搬送が必要になる
- ・ 「これ以上」「おうちに帰りたい」などを訴えている。

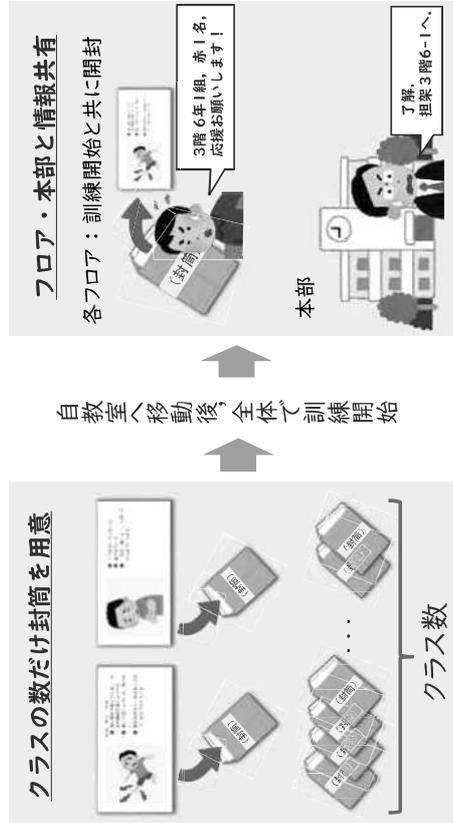
**状態： 溺水・停電**

- ・ 周囲のおどろいて階層から降り、避難を行った。
- ・ 意識も失っている。
- ・ 追加搬送もしていないが、正人だも搬送もかけても必要なくなってきた。

何色か正解することよりも、フロアでチームとして動けるかの  
方が重要。判断に悩む場合は相談したり、訂正したりして良い

## 情報伝達訓練とは

臨時本部設置場所・情報伝達経路の妥当性を試す教員向け訓練



## 情報伝達訓練レベル1～3の役割

- レベル1：教員のみで実施
  - 教員：本部設置場所・情報伝達の確認
  - 子供：--
- レベル2：子供たちと実施（子供の演技なし）
  - 封筒の説明を子供たちにも共有して、訓練を実施
  - 教員：「本部設置場所・情報伝達の確認」「声かけ訓練」
  - 子供：「発災時の少しリアルな状況の体験訓練」
- レベル3：子供たちと実施（子供の演技あり）
  - 封筒の中の紙を演技ができる子供に渡して、演じてもらう
  - 教員：「本部設置場所・情報伝達の確認」「声かけ訓練」
  - 子供：「声かけ訓練」「先生に伝える訓練」

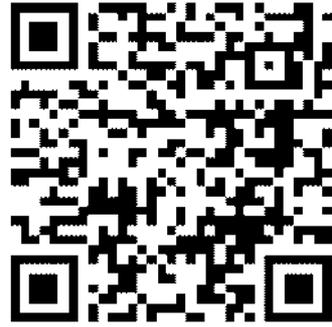
## けが人想定訓練（封筒訓練）

けが人が出た場合の情報共有・報告順位を練習

1. 事前指導
  - ・ 封筒の中に、架空のクラスメイトが入っていて、ケガをしていることを伝える
  - ・ 重症者だった場合は、先生は保健室に行くことを伝える
2. 本震・余震を示す緊急地震速報の報知音を鳴らす
3. 開封して重症度を確認、廊下で他クラスに情報共有する
4. 安否情報を本部に伝える
  - ・ 管理職が集計に来る／学年で廊下で集計する／その場でどの先生が行くかを合議して本部に伝えに行く、など

## 川越市立霞ヶ関西小学校：けが人ありの全校訓練

- 日テレNEWS 『命を守る シン避難訓練』
- 児童も一緒に訓練を行っている応用事例



## 写真で危険探し・シヨート訓練



- 訓練の事前指導：
  - 拳がったリスクを少しでも下げるために必要なコミュニケーションを、子供たちと取る時間
- 写真で危険探し授業・地震シヨート訓練
  - 「大地震にも自ら対処できる!」という自己有用感をもたせせる教材

## 落ちてきそうなもの・倒れてきそうなもの・移動してきそうなもの



## 訓練の事前指導

- 訓練の事前指導で防災教育
- 写真で危険探し
- ショート訓練

## 事前指導『写真で危険探し』

- 事前の知識
    - 日本はどこでも大きな地震が起きることを伝える
    - 学校校舎は倒壊したことがないと伝える
    - 照明や内壁が落ちる可能性があるがあるので、机の下に入ること伝える
  - 緊急地震速報の報知音について伝える
    - わざわざ嫌な気持ちになるように作ってある
    - 怖いけど、みんなを守るための音
- ※ 先生は、あらかじめ子供たちの学校での日常風景を撮影しておく

## 『地震ショート訓練』

- 「緊急地震速報を鳴らす → 身を守る」の部分だけをやる5-10分程度の訓練
- クラスごとに短時間で実施
- 短期間に複数回やると、対処行動がどんどん早くなっていくので、ショート訓練ウィーク・ショート訓練月間などにするとう効果的（見ている方もやっている方も楽しい）
- いろいろな場所・時間にしたり、クラスを半分にして、お互い見合ったりしても良い

## ショート訓練後は振り返り

- 前半グループの良かったところ・改善できるところ
- 後半グループの良かったところ・改善できるところ
- 校内の他の場所だったら？
- 他の時間帯だったら？
- 登下校中だったら？
- おうちだったら？

## 自分から夢中になって取り組み

みんなと協力して

あきらめずにやりぬく力

いま自分は何をすべきか、

周りの人は大丈夫か、

自分で絶えず考え続ける力

68

## 課題達成に向かう確かな情動力（非認知能力）

訓練は教育課程に位置づいており、児童生徒の資質・能力を高めるための活動である

- ① 興味関心を持ち、
- ② 価値ある目標への高い達成動機のもと、
- ③ その実現に向けて自己統制し、
- ④ 困難と粘り強く向き合い、
- ⑤ 多様な人々と良好な協力関係を結びつつ、課題の達成に取り組む

→ 実効的な訓練に改善した学校は、訓練を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現している

## これを実現した教職員の姿勢

- ① 子供たちを動機づけ、
- ② 挑戦への意欲と期待を示し、
- ③ 困難に陥ったときは可能性を示して励まし、
- ④ 達成したときにそれまでの過程を  
価値づけるような支援を行う

情動的に展開されるストーリーづくりを助け、  
それに寄り添う、という立ち位置

→ 防災教育に限ったものではなく、むしろ、  
普遍的な教員の資質・能力と言える

参考：『問題解決学習で育む「資質・能力」』藤原（2020）

## G. グループワーク

- 目指す児童生徒像を共有してください
  - すぐにできるものだけでなく、今後、段階的に進めて  
いったうえで、「自校の児童生徒がこのような姿に  
なってくれたら嬉しい」というイメージを共有してくだ  
さい
- 現状の訓練から改善できそうなところを話し合っ  
てください。
  - まずは「教室内待機+余震のみ」として段階的に進  
めるので構いません

命を守り抜くことの難しさを知って、  
それでもそれに向けて努力してくれた先生や  
仲間達が自分の人生にはいた、  
自分がそのように守られ、  
自分もまた誰かを守ろうとしてきた、  
ということを体験する機会が防災教育



学校の災害安全を全力で応援します! 慶応SFC大木研 /

# News Letter

2025  
vol. 1

## 大地震を想定した避難訓練でモヤモヤしていませんか?

- ✓ 雨天順延 …… 雨の日でも地震は起こるよね?
- ✓ 急いで校庭へ! …… 自クラスに過呼吸の子が出たら? 階段で余震起きたら?
- ✓ 「本日在籍〇名, 全員異常なし!」 …… 異常あったら? けが人が出たら?
- ✓ 校庭で引き渡し …… 保護者は帰宅困難では? いままで校庭に?

本番で雨天だったら, それはもうその時に考えるしかないんだ, と思っていませんか?  
そんなことはありません。今では多くの学校が「教室内待機バージョン」の訓練も行っています。  
※ 津波避難訓練を除く

## 耐震化された校舎・新耐震基準の校舎で, 倒壊した事例はありません

### 学校管理下の地震災害で過去に起きたこと

- ・ 複数児童の腰が抜けて立てない
- ・ 過呼吸が次々と連鎖
- ・ 揺れに酔って嘔吐
- ・ 校庭への避難を急がして転倒, 骨折
- ・ 校庭が液状化
- ・ 校庭での寒さで体調不良

### 他にもこんなこと, 起こりえませんか

- ・ 立て続く余震の中, 集団で急いで階段を降りるリスク(大きな余震が発生して, 転落したら...)
- ・ 休み時間中の発災, 停電して放送機器が使えない

### 探究型避難訓練をやってみよう

- Step 1:**
- ・ 地域のリスクを知る
  - ・ 自クラスのリスクを学校全体で共有

- Step 2:**
- ・ 教室内待機の練習
  - ・ 余震・停電を導入した訓練

- Step 3:**
- ・ けが人を想定した訓練
  - ・ 休み時間中の訓練
  - ・ 校種間連携の引き渡しに続ける訓練

©慶応義塾大学SFC 大木聖子研究室



学校の災害安全を全力で応援します! 慶応SFC大木研 /

# News Letter

2025  
vol. 2



校庭に避難するのは間違いだったんですか?

いえいえ, 「机の下 → 校庭」は訓練の大事な基本ステップです。  
ただ, 校庭以外にも安全に避難できる場所を知って, できるようになっておくことも重要です。校庭への避難バージョン・教室内待機バージョンの双方をやっておきましょう。



とはいえ本校の耐震性が心配なのですが...

公立学校については各自自治体で公表しているの, ご確認ください。  
なお, 文部科学省発表の資料では, R6年10月末時点での耐震化率は, 公立小中学校校舎で99.9%です。また, 体育館等の吊り天井落下防止策実施率は99.6%です。  
非構造部材(照明や内壁など)の落下は構造の耐震化とは別なので, 揺れたらすぐに机の下に入ることはとても重要です。



わざわざ余震を訓練に導入する必要はありますか?

大地震は必ず余震を伴います。現実には必ず起きるものを, 訓練のときだけ再現しないと, 本番で混乱が生じます。実際, 過去の災害では, 余震で悲鳴が上がって指示が通らなくなりました。過呼吸や嘔吐なども余震がトリガーして起きています。  
緊急地震速報の報知音を複数回鳴らすなどして余震を表現し, そのたびに机の下に入る訓練をやっておきましょう。



©慶応義塾大学SFC 大木聖子研究室



学校の災害安全を全力で応援します! 慶応SFC大木研 /

# News Letter

2025  
vol. 3-1

最初のステップとして, 教職員でやってほしいことを厳選しました!  
対応する **研修資料** も表示してあります

## 自校で進める災害安全 ステップ1: 教職員編

- 1 ハザードマップを見る(5分): 地域の脆弱性を知る
- 2 施設内のリスク箇所を把握する(10分): 施設の脆弱性を知る
- 3 『児童生徒理解』教材で, 校内の教職員と児童生徒の情報共有(20分)  
: 児童生徒の脆弱性を知る
- 4 次回訓練(教室内待機・余震あり)の相談・打ち合わせ(10分)  
※ 時間は目安です

## 1 地域にちなんだリスクをハザードマップで確認

ハザードマップ



## 2 施設の脆弱性を校内マップや目視で確認

- ・ 渡り廊下
- ・ 建物の接合部分(エクステンションジョイント)
- ・ 強化ガラスになっていないガラス
- ・ 非構造部材



文科省資料ページ



©慶応義塾大学SFC 大木聖子研究室



学校の災害安全を全力で応援します! 慶応SFC大木研 /

# News Letter

2025  
vol. 3-2

児童生徒理解ワーク.pptx

## 3 発災時, 自クラスの子供たちはどうなるか共有

- ・ 「朝の会で大地震, 自クラスの子供たちはどうなる?」のテーマで, 名前を挙げながら教職員でグループワーク。その後, 全教職員で共有。
- ・ みんなでリスクを共有して「想定外」をなくそう
- ・ 安全担当だけでなく, 全教職員で考えよう



## 4 次回訓練の相談・打ち合わせ

※ 津波浸水域ではない場合の例

- ・ 教室内待機バージョン(余震あり)をやることを提案  
→ News Letter vol.2参照
- ・ 余震が数回発生, その度に机の下へ入るよう指導  
・ 余震回数は教職員は示し合わせてもいいが, 児童生徒には言わない
- ・ 本震・余震には緊急地震速報の報知音を使用
- ・ 教職員は声かけを意識  
・ 「怪我はないですか」「周りのお友達の色はどうですか」
- ・ 意義ある事前指導として子供たちに伝えるべきことを議論・合意形成  
・ 校舎は倒壊しない/余震は必ず起きる/緊急地震速報は嫌な音  
・ 「発災したらどんな気持ちになるだろう?」(過去の手記を読む等)  
・ 「不安なお友達がいたらなんて声をかける?」

意義ある事前指導



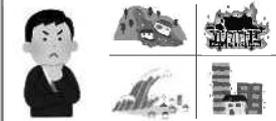
©慶応義塾大学SFC 大木聖子研究室

# 探究型避難訓練 - 教員準備編 -

子供たちも先生も  
みんなが前向きに失敗できる  
探究型訓練へ！

© 慶應義塾大学SFC 大木聖子

## 0 地域にちなんだリスク・施設の弱点を知る



## 1 自クラスにちなんだリスクを全体共有



## 2 『本部ワーク』で情報伝達について合意形成



## 3 情報伝達訓練レベル1 (教職員だけで)



## 4 情報伝達訓練レベル2・3 (子供たちと一緒に)



学校管理下の災害で起きていること：

- 余震 (科学的には100%起きる)
- 停電・校内放送の停止
- けが人・体調不良者の発生

訓練では起きないことになっている

過去に一度も起きていないこと：

- 耐震化された学校の倒壊

起きることになっている

→ 校庭避難の他に 教室内待機もやろう・情報伝達も練習しよう

# 探究型避難訓練 - 防災教育編 -

子供たちも先生も  
みんなが前向きに失敗できる  
探究型訓練へ！

© 慶應義塾大学SFC 大木聖子

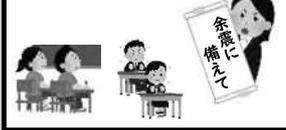
## 0 地域にちなんだリスク・施設の弱点を知る



## 1 『写真で危険さがし』『地震ショート訓練』



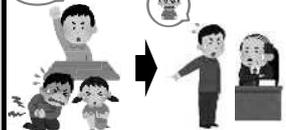
## 2 教室内待機・余震ありの訓練 ※津波浸水域でない場合



## 3 余震・停電の中、自分は何ができるか考える



## 4 けが人ありの訓練



### ■ 事前指導で伝えること

- ・ 余震・停電は起こりえること／倒壊した校舎は日本には1つもないこと
- ・ 校舎の脆弱なところ(渡り廊下・接合部分・非構造部材、等)

### ■ 自助：先生がいなくても自分で命を守る行動を取れる

- ・ 学校のさまざまなシーンでどのように身を守ればいいのか、写真を使って考える
- ・ 登下校はどうだろうか？自宅では？と問いを広げる
- ・ 5-10分でできる「身を守る部分」だけのショート訓練を連続して実施する

### ■ 共助：周りの人はどうか気にかけて、まずは声を掛ける

- ・ 教員が声をかけを変えよう！
- ・ 「顔が笑っています☺」→「怪我をしている人はいませんか？周りの人はどうですか？」
- ・ ひどく対処しなくていいので、周りに助けを求めよう促す

訓練で、子供たちと一緒に前向きに失敗を重ねましょう。そこに探究が生まれます。「今すべきことは何か」「お友達は大丈夫か」を自ら考えられる子供たちが育ちます。

## 【校内研「本部ワーク」実施方法】

文責：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 大木聖子  
vol.1 2025年6月

### 【ねらい】

- 今年度のメンバー・今年度の教室配置に見合った臨時本部設置場所と情報伝達方法を、試行錯誤しながら合意形成する（「本部ワーク」部分：実践の流れ①～⑦）
- 実際の校舎を使い、臨時本部設置場所と情報伝達方法を試す（「情報伝達訓練」部分：実践の流れ⑧～⑩）

### 【実施にあたっての準備】

- 「本部ワーク」(①～⑦部分)を行うケース：
  - ・ 全教職員が参加可能な30分の時間を確保する
  - ・ 「本部ワーク」教材一式をダウンロードする  
(ここから → <https://forms.gle/r4ASI5idWNhKIWA99>)
  - ・ 「本部ワーク」教材一式のうち、2.本部ワーク(教室配置図).pdf をグループ数だけ印刷する
  - ・ 「本部ワーク」教材一式のうち、3.本部ワーク(本部情報記録紙).pdf をグループ数だけ印刷する (※ 6.本部ワーク(本部情報記録紙/バリエーション).pdf には、さまざまな記録紙の書式があるので、この中から好きなものを使用したり、グループごとに違うものを使って使用感を確かめたりすることもできる)
  - ・ 「本部ワーク」教材一式のうち、1.「本部ワーク」eラーニング動画.mp4 (約23分)をファシリテーター(司会)の先生のパソコン等に入れておく
- 「情報伝達訓練」(⑧～⑩部分)も行うケース：
  - ・ 合意形成した臨時本部設置場所案と情報伝達経路案を実際に試すため、もう10分確保する
  - ・ 封筒をクラスの数分だけ用意する(使用済みの封筒で構わない)
  - ・ 4.情報伝達訓練教材キット.pdf から「けが人カード」をクラス数分だけ印刷・切り離し、封筒に入れておく

### 【必要なもの】

- 自校の本部セット(防災時に本部が使用するグッズをひとまとめにしたもの)
- 本部セットが準備されていない学校の場合：
  - 自校の教室配置図/本部情報記録紙/筆記用具
  - ※ 上記は本部ワークをするのに必要な最低限の用意なので、防災時の本部には他に何かが必要かは、訓練を繰り返しながら検討のこと(例:学区地図・ラジオ・全校児童生徒名簿、等)

### 【実践の流れ】

①	グループの編成	3～5名のグループをつくる。桜小学校教室配置図1枚、本部情報記録紙1枚を各グループに配布する。(グループで1セット)
②	eラーニング (0'00 - 6'00")	動画教材を再生する。動画の中の「それでは、本部ワークを始めます」という音声で、本部ワークを開始するよう促す。
	「本部ワーク」 (6'00 - 10'30")	10'30"あたりの「この動画を止めて、3分ほど感想を共有してください」という音声で動画を止めて、感想をグループ内で3分ほど共有するよう促す。
③	★感想共有 (3分程度)	グループごとに感想共有。(全体での共有は特に必要なし)
④	eラーニング (10'30 - 16'45")	動画を再生する。16'45"あたりの「それでは動画を止めて、グループワークを始めください」という音声で動画を一時停止する。
⑤	自校の配置図の配布	自校の教室配置図をグループに1つ配布する。
⑥	★グループワーク (3分+α)	自校の臨時本部設置場所、情報伝達経路について話し合う。さらに学校全体で1案か2案をまとめる、合意形成する。
⑦	eラーニング (16'45" - 最後まで)	動画を再生する。
⑧	封筒の配布	担任にランダムに封筒を配布し、自教室に行ってもらう。
⑨	★情報伝達訓練 (5-10分程度)	緊急地震速報の報知音などで訓練を開始。臨時本部の設置と情報伝達経路について、案1を実際にやってみる
⑩	★感想共有 (適宜)	元の教室に戻り、案1が妥当だったか、やってみてどうだったか、感想を共有し、次回訓練時の臨時本部設置場所と情報伝達経路を合意形成する。

## 本部情報伝達訓練 教材キット

- **目的：**
  - 発災直後の臨時本部の設置場所、そこへの情報伝達経路やその方法がうまく機能するか、ためにしやってみるための教員向け訓練。うまくやることは目的ではない。
- **ポイント：**
  - 事前に「本部ワーク」を校内研として行う。
  - 「本部ワーク」で提案された臨時本部設置場所とそこへの情報伝達経路がうまく機能するか、試しにやってみる。
  - 「学校全体のどこで何が起きているのか誰も把握できていない状況」にしない。
  - **チームとして動く**
    - 困ったら声を上げる / 念のための伝達も臆せずにする。
    - まずはフロア内でOne Team。次いで、学校全体でOne Teamとなる。
    - 臨機応変にそれぞれの教員が自分で考えて動く。

あくまでも教員間の連携が目的。封筒内のけがが赤・黄・緑の何に対応するかを判断できるようになることは目的ではない。

色判断を間違えても、自信がなくて他の教員と相談してもいい、報告したものの誤りに気づいて訂正してもいい。  
大事なのは、それらができる雰囲気学校になっているかどうか。

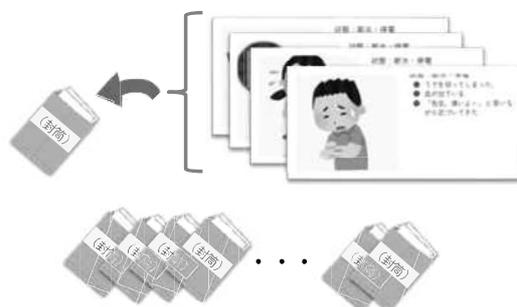
## 本部情報伝達訓練のやり方（準備編）

1. クラスの数だけ封筒を用意する（使い古しでOK）
2. 本資料にある「けが人カード」を印刷して切り離す
3. 用意した封筒にカードを入れ、ランダムに配布する
  - ✓ 最初は1封筒に1枚で良いが、学校全体では赤と黄を1枚ずつくらい入れておく。
  - ✓ ランダムに配布と言いつつ、低学年には赤は入れない、フロアごとにバランスを取る、などは自由に采配。

※ 慣れてきたら、1封筒に複数枚のけが人カードを入れて、各担任がけがの軽重を判断する機会とする。

学校の規模にもよるので、下記はあくまで目安：

- ・ 色なし → 全クラスに複数枚
- ・ 緑 → 全クラスに数枚
- ・ 黄 → 学校全体で2-5枚
- ・ 赤 → 学校全体で1-2枚



クラスの数だけ封筒を用意

## 本部情報伝達訓練のやり方（実施編）

1. 各教員は封筒をもらい、自教室に向かう。訓練開始まで開封しない。
2. 訓練開始後、開封。
3. 情報伝達の開始：
  - ・ Step1：封筒内の重症度を判断
  - ・ Step2：フロアで情報共有（無事報告/応援要請）
    - 赤・黄なし → 廊下に出て「〇組無事です！」
    - 赤・黄あり → 「〇組、赤です！ 応援をお願いします！」
  - ・ Step3：本部へ報告
    - ※ 学校ごとのやり方で本部へ情報共有
4. 訓練の終了：以下のいずれでも良い
  - a. 本部が情報を把握して指示を決め、情報をフロアに戻して終了
  - b. 赤・黄のカードを担架で保健室に搬送して終了。
  - c. 赤・黄のカードを担架で保健室に搬送、緑の人数も把握した後、本部の情報をフロアに戻し、引き渡しの開始を宣言して終了

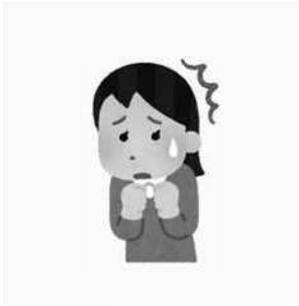


## 色なしカード

- 赤・黄・緑のいずれのけが人でもないが、不安などで平静ではない状態。
- どのクラスにも複数枚（何枚でも）入れてよい。



けが人の発見 → 声掛け → 必要に応じた情報共有



- 状態：断水・停電
- 大きな地震がおきて不安.
  - けがをしたお友達がいることがわかって、どんどん不安になる.
  - 「こわいよー」「おうちに帰りたい」などを言っている.



- 状態：断水・停電
- 大きな地震がおきて不安.
  - けがをしたお友達がいることがわかって、どんどん不安になる.
  - 「こわいよー」「おうちに帰りたい」などを言っている.



- 状態：断水・停電
- 大きな地震がおきて不安.
  - けがをしたお友達がいることがわかって、どんどん不安になる.
  - 「こわいよー」「おうちに帰りたい」などを言っている.



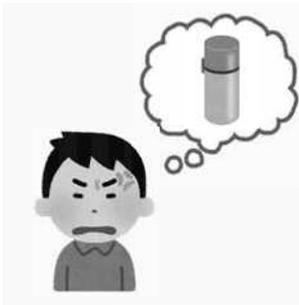
- 状態：断水・停電
- 大きな地震がおきて不安.
  - けがをしたお友達がいることがわかって、どんどん不安になる.
  - 「こわいよー」「おうちに帰りたい」などを言っている.



- 状態：断水・停電
- 「家族が心配だから帰る」「おうちに帰る」と連呼して、外に出ようとしている.



- 状態：断水・停電
- 「家族が心配だから帰る」「おうちに帰る」と連呼して、外に出ようとしている.



- 状態：断水・停電
- 「水筒の中身がなくなっちゃった」「のどがかわいた」と言って、イライラしている.



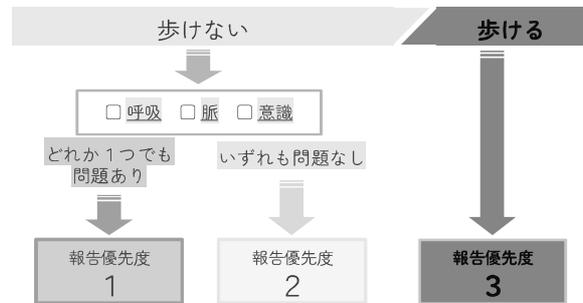
- 状態：断水・停電
- 「トイレに行きたい」「もれちゃう」と言っている.



- 状態：断水・停電
- 不安が高まり、「みんな死ぬんだ」「もう終わりだ」などわけのわからないことを言っている.
  - 周囲の子どもたちがどんどん不安になっている.

## 緑カード

- けがをしているが「歩ける」状態.
- どのクラスにも複数枚入れてよい.



けが人の発見 → 声掛け → 必要に応じた情報共有



- 状態：断水・停電
- サルのポーズをしているときに、指をはさんでしまった。
  - 出血はしていない。
  - 指がはれて「痛い、痛い」と言いながら、助けを求めている。



- 状態：断水・停電
- うでを切ってしまった。
  - 血が出ている。
  - 「先生、痛いよー」と言いながら近づいてきた。



- 状態：断水・停電
- 強いゆれで転んで、ひざをすりむいた。
  - 痛さと不安とで、今にも泣き出しそう。



- 状態：断水・停電
- 強いゆれで転んで、ひざをすりむいた。
  - 痛さと不安とで、今にも泣き出しそう。



- 状態：断水・停電
- 強いゆれや何度も起きる余震で、不安が大きくなり、お腹が痛くなる。
  - 「トイレに行きたい」と言っている。
  - トイレは断水している。



- 状態：断水・停電
- 強いゆれや何度も起きる余震で、不安が大きくなり、お腹が痛くなる。
  - 「トイレに行きたい」と言っている。
  - トイレは断水している。



- 状態：断水・停電
- 給食の熱い食がたおれて手にかかり、やけどをした。
  - 右手の3本くらいが赤く水ぶくれになっている。
  - 「熱い！熱い！」と言っている。



- 状態：断水・停電
- 地震がこわくて、過呼吸になっている。
  - フラフラしているが、支えれば歩ける。
  - 余震や悲鳴に反応して、過呼吸をくり返す。



- 状態：断水・停電
- 地震がこわくて、過呼吸になっている。
  - フラフラしているが、支えれば歩ける。
  - 余震や悲鳴に反応して、過呼吸をくり返す。

## 黄色カード

- 「歩けない」けがをしている。意識や呼吸・脈には異常なし。
- (学校全体で2~5枚くらい)



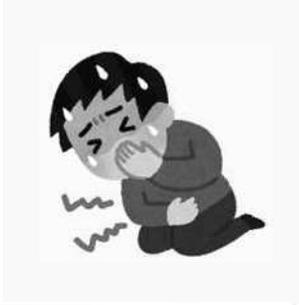
けが人の発見 → 声掛け → 必要に応じた情報共有



- 状態：断水・停電
- 強い揺れで転んでしまい、右足の親指を強くぶつけた。
  - 痛くて苦しんでいる。歩けない。
  - 靴をぬがすと、内出血しており、かなりはれている。



- 状態：断水・停電
- 給食の熱い食缶がたおれて右手と右足の膝から下全部にかかり、大やけどをしている。
  - 「熱い！熱い！」と泣き叫んでいる。



- 状態：断水・停電
- 地震の揺れで気持ち悪くなった。
  - 身動きが取れないほどの腹痛もある。
  - 寒気がして、ガタガタふるえている。



- 状態：断水・停電
- トイレからうめき声が聞こえてくる。
  - 身動きが取れないほどの腹痛。
  - 寒気がして、ガタガタふるえている。



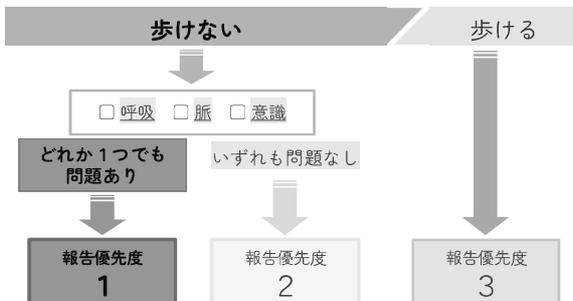
- 状態：断水・停電
- 突然の地震に驚いて腰がぬけてしまった。
  - 立つこともできないが、本人も何がなんだか分からない状況。



- 状態：断水・停電
- 突然の地震に驚いて腰がぬけてしまった。
  - 立つこともできないが、本人も何がなんだか分からない状況。

## 赤カード

- 「歩けない」けがをしており、意識や呼吸・脈に異常がある。
- 緊急を要するけが。
- (学校全体で1~2枚くらい)



けが人の発見 → 声掛け → 必要に応じた情報共有



- 状態：断水・停電
- 揺れにおどろいて階段から落ち、足首をひねった。
  - 痛くて何も話せない。
  - 肩を借りても歩けない。
  - 時間がたつと、吐き気や寒気がしてくる。



- 状態：断水・停電
- 揺れにおどろいて転び、お腹を強く打ち付けた。
  - とっても痛がっている。
  - 話しかけても返事がうろつ。
  - 視点を合わせて話せない。



- 状態：断水・停電
- ゆれにおどろいて階段から落ち、頭を打った。
  - 大量出血している。
  - 最初は返事をしているが、だんだんと話しかけても反応しなくなってきた。

令和7年度「学校安全総合支援事業」埼玉県推進委員会委員及びアドバイザー等一覧

【アドバイザー】

埼玉県立大学・日本女子大学 非常勤講師	高橋 宏至
慶應義塾大学環境情報学部准教授	大木 聖子
県警察本部交通部交通総務課課長補佐	芝間 裕史
県警察本部生活安全部生活安全総務課課長補佐	弘田 耕平
気象庁熊谷地方气象台調査官	益子 直文
気象庁熊谷地方气象台地震津波防災官	山下 芳晴
気象庁熊谷地方气象台気象情報官	岩野 園城

【委員】

公益財団法人埼玉県消防協会次長	長嶋 悟
気象庁熊谷地方气象台次長	吉村 純
県教育局県立学校部保健体育課長	荻原 篤大
所沢市立所沢小学校長（埼玉県安全教育研究協議会会長）	関根 祐一
県立岩槻高等学校長（埼玉県高等学校安全教育研究会会長）	深井 秀仁
県教育局南部教育事務所教育支援担当指導主事	内田 敦子
県教育局西部教育事務所教育支援担当指導主事	伊藤 将瑛
県教育局北部教育事務所教育支援担当指導主事	大嶋 一寿
県教育局北部教育事務所秩父支所教育支援担当指導主事	横山 祐樹
県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事	赤城 雅史
川越市教育委員会指導主事	藤館 奈美
鶴ヶ島市教育委員会指導主事	梅館 雅敏
本庄市教育委員会指導主事兼課長補佐	市川 宝生
県立杉戸農業高等学校長	田口 剛
県立川越初雁高等学校	吉田 健治
県立熊谷西高等学校長	守屋 淑美
県危機管理防災部危機管理課普及啓発担当主幹	吉野 直哉

【事務局】

県教育局県立学校部保健体育課教育指導幹	佐藤 泰弘
県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当主任指導主事	薬師寺將二
県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当指導主事	箱田 健一
県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当指導主事	山田 朗
県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当主任	高槻 伊織



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」